

## 情報セキュリティ・ITリテラシーの重要性を今一度 考えてみる

|     |   |
|-----|---|
| 著者  | 河野 和宏   |
| 雑誌名 | 関西大学インフォメーションテクノロジーセンター<br>年報 : ITセンター年報  |
| 巻   | 8   |
| ページ | 1-2   |
| 発行年 | 2019-03-01  |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/10112/00018858">http://hdl.handle.net/10112/00018858</a> |

---

---

## 情報セキュリティ・IT リテラシーの重要性を今一度考えてみる

関西大学社会安全学部准教授  
河野 和 宏

情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）という資格を聞いたことがあるだろうか。2016年にサイバーセキュリティ対策を担う人材を確保する目的で作られた国家資格であり、情報系・IT系分野では初の士業とされている。試験の難易度は、以前まで行われていた情報セキュリティスペシャリスト試験（情報処理技術者試験の一区分であり、その試験の中で最も高いスキルが要求される高度情報処理技術者試験の一つ）と同等であるが、資格を維持するために定期的な講習が必要であること、秘密保持の義務があることなどの違いがあり、登録者に高度な知識とそれに見合った行動を求めている。同じく2016年には、ITパスポート試験の上位試験として情報セキュリティマネジメント試験が情報処理技術者試験の一区分として新設されており、前者が全ての社会人、後者はITの安全な利活用を推進するものを対象とした試験となっている。以上のことから、立場により程度の差こそあれ、この高度情報化社会において、正確な情報セキュリティに対する知識やITリテラシー・モラルを持つことは、私たちIT利活用者にとって必須事項になっているといえる。

情報セキュリティに対する正確な知識を取得し、ITリテラシー・モラルを高めるためには、自身が利用している情報機器やシステムを把握した上で、どのような対策があるのか知る必要がある。しかしながら、これから社会に出て行く学生を見ていると、自身が利用している機器・システムですらブラックボックス化しており、これでは適切な対策・運用は難しい。例えば、パソコンやスマートフォンといった情報端末がどう動いているか、インターネットはどのような仕組みなのか全く知らないのであれば、どこに弱い部分があるのかは把握できないだろうし、一般的な対策の一つであるセキュリティソフトをとっても、どのようにして様々な脅威から情報機器を守っているか知らなければ、適切な運用ができていない可能性がある。そのほか、ID・パスワード認証から指紋認証や顔認証等の生体認証に変更したのでセキュリティはより強固になったという話も耳にするが、ID・パスワード認証と生体認証は認証の仕組みが違うため代替にはならず、より強い認証システムにするのであれば、両者を組み合わせた二要素認証にする必要がある。それなのに認証の仕組みの違いを知らない人は、生体認証に変更したのでより安全になったという勘違いをおこしてしまっているケースも見られる。

情報セキュリティ対策を考える場合、技術・人・組織・物理の4つの観点から考えることが

多いが、この中で最も難しい対策が人的対策であり、かつ攻撃に対して最も弱いのも人である。これまで述べてきたとおり、人が利用するシステムをブラックボックス化している限り、いつの間にかスキを突かれたり、不正確な情報を信じて間違った使い方をしたりして、高確率で何らかのインシデントを引き起こしてしまうことになる。

そのようなシステムのブラックボックス化を避けるためにも、学生への情報教育はこれから非常に重要度を増していくことになるだろう。その点において、人間健康学部 森田亜矢子による「初年次教育における ICT 教育とパソコン利用に関する学生の利用実態」は、高校を卒業して大学生になったばかりの学生の状況を知り、現在の大学初年次での情報教育を踏まえたうえで今後何が求められるか検討する上で貴重な報告となっている。また、総務局秘書課 福田聡らによる「ICT を利用した業務の効率化への取り組み（会議のペーパーレス化、電子決裁）について」も、よく話題にあがるペーパーレス化の仕組みを踏まえたうえでどのようなメリット・デメリットがあるのか、電子決裁の特徴はどこにあるのかを実体験をもとに書かれているため非常に有意義な報告となっている。特にペーパーレス化は、個人が所有する情報機器を持ち込む BYOD (Bring your own device) を考慮するなら、学生にも関係してくる話題といえよう。こういった最先端の ICT に関するシステムを使いこなすためにも、学生、さらには教職員も含め全員が正しい知識を持つ必要があるといえ、情報教育の重要性を改めて感じることができる。

日本全体で見ても、情報教育の見直しが進められてきており、2020年度から小学校においてプログラミング教育が実施されたり、大学入学共通テストにおいて情報科目に関する問題の出題が検討されたりするなど、話題に事欠かない。それだけこの現代を生きている人々には、IT に関して最低限の知識が求められているといえる。関西大学の様々な ICT サービスを提供している IT センターでも、ホームページ上で情報セキュリティ・モラルを学習できるページを用意するだけでなく、情報セキュリティキャンペーンを毎年実施したり、IT センターのスタートガイドブック「IT Navi」を一度でも見てもらおうと、漫画家・デザイナーの山下いくと氏にキャラクターの作成を依頼して学生に目につきやすいデザインにしたりするなど、IT リテラシー向上に向けた様々な活動を行っている。加えて、IT 所員が中心となって関大 LMS の利活用推進に向けたリーフレットを作成するなど、各種サービスの普及活動も行っている。教育活動も含め、もしこのような活動を行ってほしいということがあれば、ぜひ一度 IT センターに問い合わせさせていただきたい。